

1 検体液を希釈する

マイクロピペットと試験管を使い検体液を希釈します。

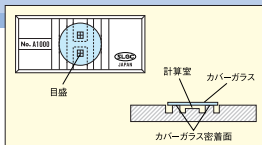
例) 100倍希釈液の作り方: 希釈液を99、次に検体液を1の割合で試験管に入れ、ミキサーなどで良く攪拌して希釈液中の細胞分布を均一にします。

2 計算盤とカバーガラスを洗浄する

①計算盤目盛面と両側のカバーガラス密着面を、薬用エタノールを適量含ませた清浄なガーゼ・キムワイブ等できれいにふきます。

- ガラス面に少し強めに押し付けながら一方向に2～3回ふき取ると、ホコリをたてずに汚れを取り除けます。

②同様にカバーガラスを洗浄します。



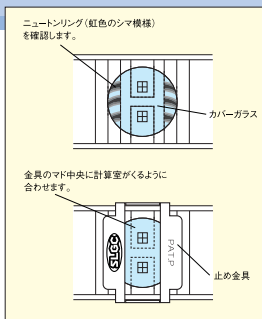
3 計算盤をセットする

①カバーガラスを計算盤の密着面にのせ、ニュートンリングを確認します。

- 反射光をとらえるとよく見えます。
- 確認できない場合はホコリ等の付着が考えられるので、再度はじめからふきなおして下さい。汚れのついた状態で算定をおこなうと計算室の深さがくるい正確な算定が出来なくなります。
- ニュートンリング: 表面が同率曲線のガラスを重ね合わせると出る虹色のシマ模様をいい、ホコリ等の汚れが間に入ると表れません。

②止め金具をかぶせて四隅を下に押し込みカバーガラスを固定します。

- 止め金具を使用しない時は、カバーガラスの上から両手指ですり込むように2～3回押し込むとガラス盤に密着します。



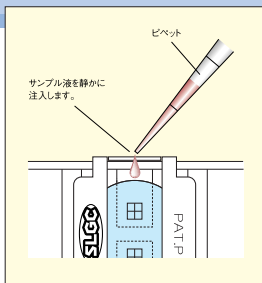
4 サンプル液を注入する

①サンプル液を再度ミキシングして細胞分布を均一にした後、ピペットに適量とります。

②カバーガラスの端面近くで計算室上に液を少量ずつ静かに滴下すると、毛細管現象により計算室に充満します。

- 液を入れ過ぎて計算室両側のミゾやカバーガラス上にあふれないように注意します。
- あふれた液をガーゼ等でふき取ると、希釈液中の細胞が多く吸い取られるおそれがあるので注意して下さい。

③粘度が高い原液をそのまま算定する場合は、計算室上に数滴たらし、その上から気泡が入らないよう注意しながらカバーガラスと止め金具をセットします。



SLGC 血球計算盤

使用法

5 顕微鏡下でカウントする

数分間静置して細胞等の沈下を待ち、顕微鏡下でカウントします。

- 1マス（目盛の最小単位）当たり細胞数に極端なバラつきが見られる時は、サンプル液内の細胞分布が不均一と思われる。また、計算室に気泡が入ると正確な算定が出来なくなります。この様な時は希釈液をよく攪拌して再度はじめからやり直して下さい。

6 計算式にあてはめ算定する

カウント数を各計算盤の取扱説明書に記載された計算式にあてはめ、単位あたり細胞数を算定します。

7 使用後の洗浄法

液を注入した状態で計算盤を放置すると汚れが乾燥して取れにくくなり、計算室容積のくもらい目盛ラインが見えにくいなどの原因となります。使用後は出来るだけ早く以下の手順で洗浄して下さい。

- ① 計算盤から止め金具とカバーガラスをはずし、流水できれいに洗う。
 - 殺菌処理を必要とする場合はビューラックス等の消毒液にそのまま浸して下さい。
 - ブライトライン計算盤は目盛ラインが消えるおそれがあるので、酸やアルカリの消毒薬は使用しないで下さい。
- ② エタノールとエーテル混合液（1：1）に10分程度浸す。
 - エタノールのみの場合には汚れに応じて時間を調整して下さい。
- ③ 液から取り出し、エタノールを含ませた清浄なガーゼやキムワイブ等できれいにふく。
 - 研磨剤の付いた布やホコリの付いた硬い紙などでふくとキズが付き、目盛ラインが見えにくくなるおそれがあるのでおこなわないで下さい。

注）オートクレーブによる殺菌洗浄は急熱・急冷によりガラス盤が破損する恐れがあります。また洗浄水に含まれる不純物が加熱乾燥時にガラス盤に密着し、目盛ラインが見えにくくなる原因ともなりますので行わないで下さい。